

松本市の文化施設及び 文化的活動の現状について

2026.5.12 文化審議会第3期文化施設部会資料

松本市のプロフィール



人口(2026. 4. 1現在)	231,046人
世帯数	// 110,385世帯
面積	978.47㎡(うち山林が61. 2%)
市制施行	明治40年5月1日(119歳) 令和3年4月から中核市
キャッチフレーズ	豊かさと幸せに挑み続ける 三ガク都(岳都・楽都・学都)

文化芸術に関する主な取組み

- 松本市文化芸術基本条例 平成15年9月
- 松本市文化芸術推進基本計画 令和3年策定(令和6年改訂)
【目指す姿】文化芸術で人と人がつながり、まちに魅力と活気があふれる**三ガク都・松本**
- セイジ・オザワ松本フェスティバルスタート 平成4年
(創設時はサイトウ・キネン・フェスティバル)
- 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)受賞 平成26年
- 東アジア文化都市2026開催 令和8年



松本市の文化施設について

中核市都市要覧（2026.1 中核市市長会）より

	人口（人）	面積（㎡）	一般会計 歳出予算(千円)	文化施設 (公会堂・市民会館)	博物館	図書館	公民館
中核市平均	358,677	403.48	169,805,523	6	12	6	31
松本市	233,020	978.47	113,617,230	8	31	11	36

【博物館】登録博物館(私立含む) 科学、歴史、美術、動物園等
 【図書館】市立のみ
 【公民館】社会教育法に基づく条例により設置されているもの



松本市の文化関係経費について

令和6年度地方における文化行政及び令和5年度文化関係経費の状況について(2025.5 文化庁)より
 ※歳出予算は 中核市都市要覧（2025.1 中核市市長会）より

	芸術文化経費 千円	文化財保護経費 千円	計(A) 千円	一般会計 歳出予算(B) 千円	A/B
中核市平均	924,513	305,577	1,230,090	164,921,848	0.7%
松本市	2,007,795	1,555,531	3,563,326	110,498,996	3.2%



主な文化施設の管理体制

※ディレクターとして外部人材を招聘

施設名	管理運営形態	
	直営	指定管理
まつもと市民芸術館	—	(一財)芸術文化振興財団に特命指定
音楽文化ホール	—	(一財)芸術文化振興財団に特命指定
松本市美術館	学芸部門は直営	館管理は(一財)芸術文化振興財団に特命指定
松本市立博物館	学芸部門は直営	館管理は公募選定による民間事業者
博物館分館(15館)	14館は直営	1館(山と自然博物館)は公募選定による民間事業者
図書館(+分館10館)	直営	—
公民館(中央+地区35館)	直営	—



まつもと市民芸術館
芸術監督団

木下裕一氏(団長)
倉田 翠氏
石丸幹二氏



松本市美術館
館長

小川 稔氏

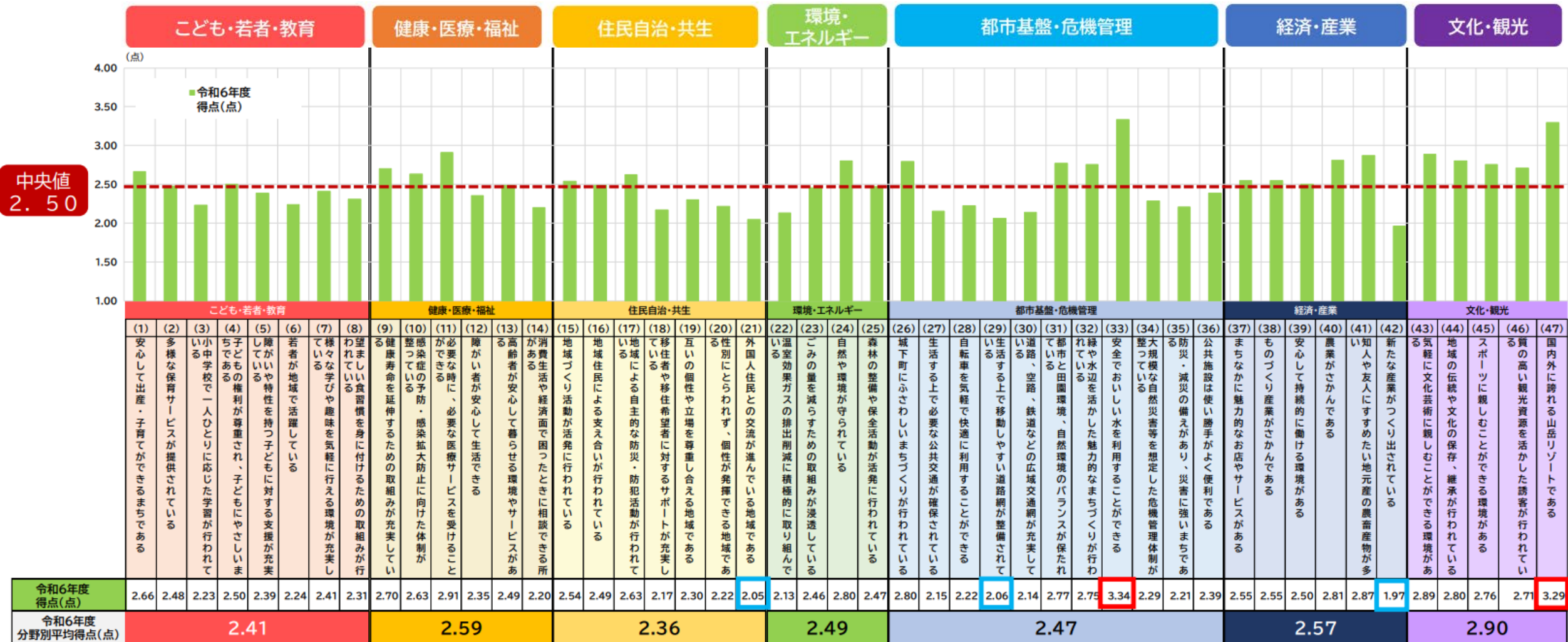


松本市立博物館
アソシエイト
プロデューサー

おうち おさむ氏

基本計画策定に係る市民意識調査(令和7年3月)の結果から

- ・18歳以上の市民2400人を無作為抽出して実施(回答率44.4%)
- ・7つの分野の施策に対する市民の現状評価は中央値2.5点に対し「文化・観光」の平均点が2.9点と最も高い。



3つの目標

〈変更なし〉

松本市文化芸術基本条例第7条に基づき設定

①市民の誰もが自由に文化芸術に親しむことができる

市民のウェルビーイングのため、誰もが広く文化芸術を楽しめる機会をつくり、人々の笑顔があふれるまちを創造

②松本独自の文化芸術を継承しながら、新しい松本の文化芸術を創造する

「松本らしさ」の継承と新たな文化芸術の創造により、相互に理解し尊重しあえる社会を形成

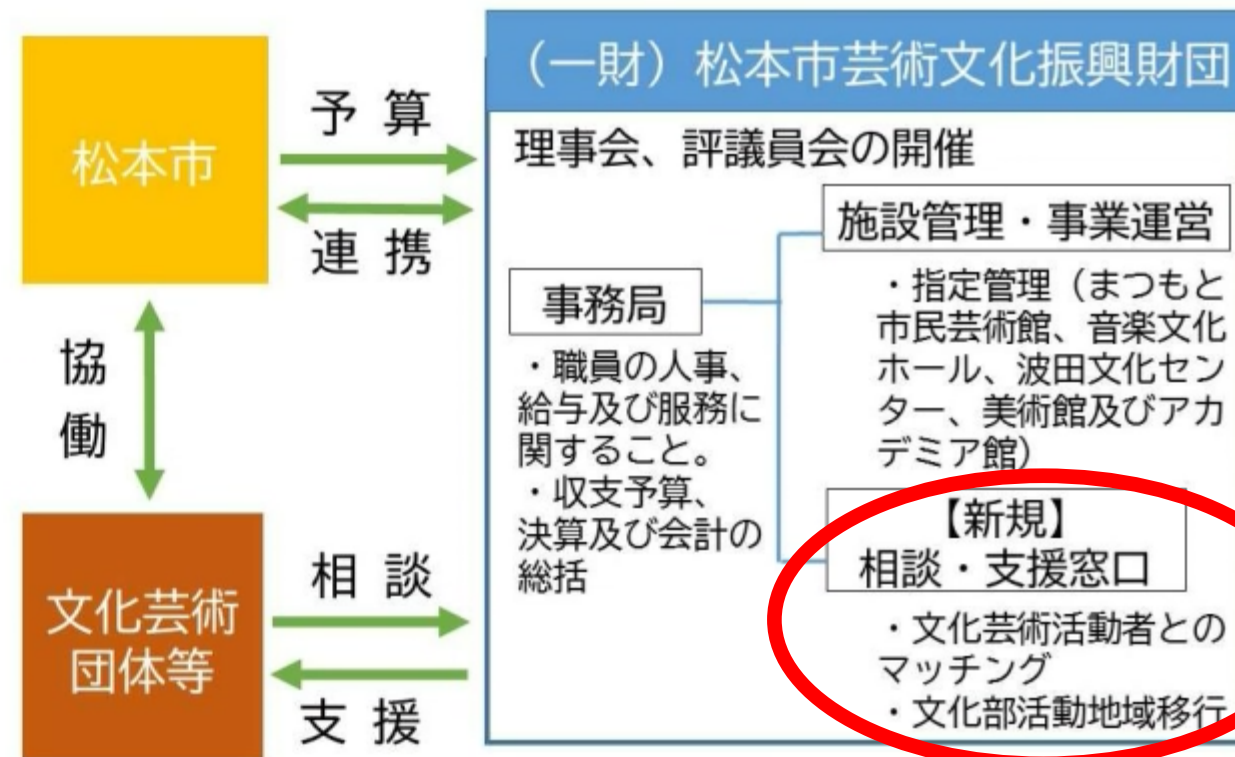
③さまざまな分野との連携により、課題解決や地域の活性化につなげる

社会のあらゆる場面で文化芸術の力が活かされるよう、各分野や施設、団体との連携により市民の文化芸術活動の裾野を広げる。

目指す姿

文化芸術で人と人がつながり、まちに魅力と活気があふれる三ガク都・松本

文化芸術推進体制



松本市における文化的活動の特徴

学びや歴史文化を大切にしてきた市民性が土台となり、市内の文化施設やイベントなどにおいて、市民の多様で主体的な文化的活動が展開されている。

平成26年 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門) 受賞理由

松本市は、公民館活動が盛んであり、**市民が積極的に地域活動**等に関わってきた。特に音楽文化ホールのボランティア組織ハーモニーメイトの活動が契機となり、「観て楽しむ」から**「運営する側として楽しむ」という独自の市民文化**が育まれ、のちの「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」※等のボランティア活動に発展した。

また、地域の工芸作家が主体となって始まった「クラフトフェアまつもと」は、現在では**街全体を巻き込んで発展**し、信州の5月のイベントとして定着している。

こうした市民活動に後押しされるかたちで、文化芸術を身近に触れる機会や活動環境の整備、長野県初の「文化芸術振興条例」の制定(平成15年)等が進み、現在の文化芸術都市・松本が花開いている。

※平成27年度から名称を「セイジ・オザワ松本フェスティバル」に変更

音楽文化ホール(1985～)



クラフトフェアまつもと(1985～)



 工芸の五月
Matsumoto Crafts Month

セイジ・オザワ
松本フェスティバル(1992～)



SEIJI
OZAWA
MATSUMOTO
FESTIVAL



松本まるごと博物館構想(平成12年策定)

“松本は屋根のない博物館”

松本市立博物館と市域の自然環境や文化・産業等の遺産を有機的に結び付け、市民の生涯学習と地域の振興に寄与することを目的とした新たな博物館像を創出するための構想

【構想の基本理念】

- 1 松本の豊かな自然環境や文化・産業等の遺産を活用し、地域振興に寄与します。
- 2 市民が主体的に関わることで、市民生活に精神的な潤いを与えます。
- 3 高度情報化社会に対応する、情報の収集と発信の拠点とします。
- 4 博物館がこれまで果たしてきた役割を重視し、市民の学習及び研究の拠点とします。



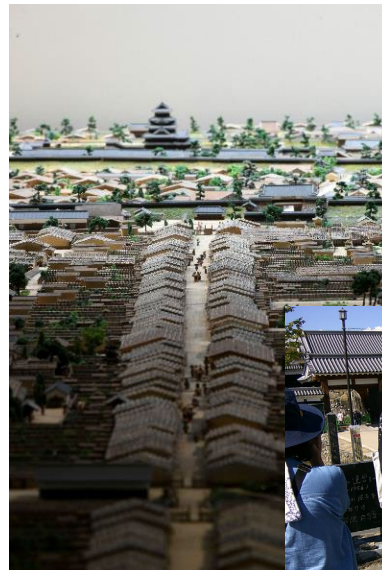
新博物館のコンセプト

「松本学」を探求し、「松本の未来」を創造する。

- ① 「ふかめる」 「松本学」の探求拠点として、松本に対する理解を深めます。
- ② 「はぐくむ」 地域に根差した博物館として、松本の“ひと”と“まち”を育みます。
- ③ 「つなげる」 新たな交流・連携拠点として、“ひと”と“もの”と“こと”を繋げます。



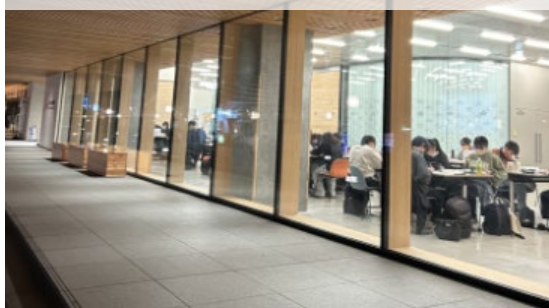
市民や観光客に開放されている
多目的なスペース



日本最大級の城下町のジオラマと
展示を活用して案内を行う市民学芸員



自ら主体的に学び、市民学芸員や
博物館友の会として地域貢献



まとめ(松本市における今後の課題)

① 持続可能な施設の維持管理

→計画的な施設改修、公共施設(ハード・ソフト両面)の集約化、多機能化
市民ニーズを捉えた施設のあり方の見直し(次ページ参照)

② 文化芸術や歴史を重んじる市民性の継承・担い手となる人材の育成

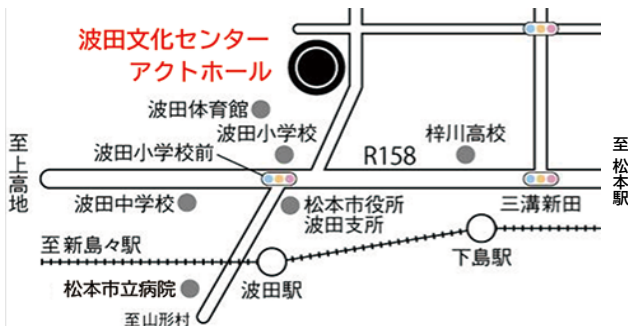
→市民が文化芸術の贈り手(運営する側)を楽しむ文化の継承・醸成
施設運営従事者(指定管理者)の安定的な雇用
文化的資源を活用しての中学校部活動の地域展開

③ まちの資産(自然・文化芸術・歴史・産業)を面でつなげ、活用する仕組みづくり

→市民が主体的に文化芸術のまちづくりに係わるプラットフォームづくり
文化施設及び民間事業者間の相互の情報共有及び連携



松本市波田文化センター 子育てと若者の居場所を設置



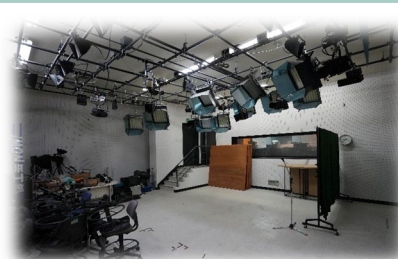
- R3 貸館の利用率が低迷 ➔ 向上を目指し、施設の方向性について検討開始
- 6.12 利用者・地元に対しアンケートを実施しニーズを把握 ➔ 用途変更することに
7. 5 「子育て・若者世代向けの施設に」とする方向性を地元で提示・合意
8. 2 令和8年度当初予算に改装費用として約324万円を計上
9. 4 供用開始(予定)

会議室 1・2 (2F)



- 利用率(低) ➔ 遊びと学びのスペースに変更
- 主な対象：未就学児
- 身体全体を駆使してお絵描き 文化芸術に触れる

CATVスタジオ・調整室 (B1F)



- R3～使用なし ➔ 文化活動のスペースに変更
- 主な対象：中・高校生
- 音楽・ダンス・動画配信など自由な使い方ができる